

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
らふたあかる		令和7年 4月 22日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・児童の状況や活動に応じて部屋を分ける。 ・必要に応じて2階の和室を利用する。	・昼寝等で部屋が使用できない場合の対策、事務所の使用方法等の検討。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			・職員の欠員出してしまうと外出活動が難しくなり、活動に制限がかかるのが現状。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	・毎日の清掃、スケジュール表を用いた構造化などの工夫。	・現在は必要としないが、車椅子などが利用できる設備としては不十分であるため、必要となれば設備の見直しが必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・季節の壁面を飾ったり、整理整頓を心掛け、清潔感には配慮している。 ・こまめな消毒と毎日の清掃。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・設問1と同様。	・設問1の改善策と同様。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・保護者の方の意見を真摯に受け止め、改善が可能な点は早急に改善を図っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・毎月職員会を開催し、職員間での意思疎通や意見交換を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		・外部による第三者評価は行っていない。今後検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・施設内外問わず、外部講師による研修会やメンタルヘルスサポートを実施。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・利用家庭への文書配布も行い、今春よりホームページにて掲載予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・保護者の思いを丁寧に汲み取り、支援計画に反映。また、保護者や児童のニーズ把握に努め、家庭との連携を大切にしている	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・支援計画会議やモニタリング評価においても、全職員で意思統一が図れるよう話し合いの場を持っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・13の回答と同様。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3	・現在は『あいサポートファイル』を使用し、アセスメントを行っている。	・事業所内で基準となるアセスメントシートの作成、加えて子ども一人ひとりに合ったアセスメントを行う必要がある。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	・保護者にも丁寧な提示を行い、支援課題の共有を図っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・メンバーそれぞれがアイデアを出し合い、話し合いの上決定している。バリエーションに富んだ活動内容となるよう工夫している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・各専門職に意見を聞き、活動に反映させている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		・児童の特性や状況により、必要な場合は個別活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・午前中の空いた時間等には日頃より、ミーティングを実施している。	・午後からのパート職員とのミーティング時間が設けられていない為、改善が必要。(個々に出勤時に申し送りを行っている)
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	・必要な事項は、支援終了後に丁寧な連携を図っている。	・個々での打合わせは都度行っているが、退勤時間の差があり、即座に職員全体で共有する時間が持てず、共有できていない事もある。翌日の支援開始前に、職員会で共有する時間を設ける。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・毎日の日報を通し、児童の共通課題を図るとともに、支援の改善は都度検討している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・定期的なモニタリングを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・利用者の主体的な活動を大事にしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・必要に応じ支援会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		・必要に応じて、医師や学校など関係機関との連携は欠かせない。	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	7		・マチコミシステム等を活用している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		・新規児童の受け入れの際には、移行支援会議に参加している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		・相談支援事業所との連携を図っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		・外部講師など、スーパーバイザーによる助言をいただいている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	2	近隣公園にて地域の児童と遊ぶ機会があるが、積極的な関わりは無い。	

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2		・積極的に参加を行う。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・送迎時やモニタリングの際には、保護者との丁寧な連携を大切にしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		・家族参加が可能な研修等があれば案内を配布し情報提供を行う。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	・その都度丁寧な説明を心掛け、質問等に回答出来る様な体制を整えている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・初期アセスメントの際には十分な聞き取りを行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2	・毎年親子会を開催しており、ご家族にもご参加いただいている。	・今後もより多くのご家庭や、ご家族に参加してもらいやすい企画の検討を行う。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・個人情報取扱い同意書を交わしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4		・日頃より地域の方にもお声掛けをしながら連携を図り、災害の際には協力し合える関係作りに努める。
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		・全利用者に非常災害計画を配布し周知している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・BCP計画の作成を行い、有事に備え定期的な避難訓練を実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・必要に応じ、医師による同意書をいただいている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	・アレルギー対応が必要な児童には対応を実施している。	・保護者様とのこまめな連携は図っているが、アレルギーに関する医師の指示書はもっていない為、必要に応じ保護者に依頼をする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		・安全衛生委員会の設置と運営を行っている。	

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	・現在、やむを得ない身体拘束を必要とする児童はいないが、身体拘束委員会を設置し施設内研修を実施している。	・今後も身体拘束委員会(虐待も含め)を通し、全体職員での理解をより深めていくと共に身体拘束が必要な児童には、事前に保護者の了解を得て、支援計画作成時に記載する。